賣新聞 【朝夕刊月ぎめ定価3925円（本体価格3738円＋消費税187円）】1部売り朝刊130円・夕刊50円 （第3種郵便物認可）

「学校行くのも怖い」

被災児童の心ケア

伊豆大島

台風26号による土石流で大きな被害を受けた伊豆大島（東京都大島町）では21日、悲惨な現場を目の当たりにして傷ついた児童や生徒らに対する臨床心理士らによる「心のケア」や、看護師らの専門家チームによる遺族の精神的ケアが始まった。

都が専門家派遣

「心配で学校に行かせられない」。元町地区に住む主婦(39)は不安を募らせる。17日、小学3年の長女(9)と自宅周辺の被災現場を見に行くと、長女は泣き出した。それから自宅でも塞ぎ込みがちで、主婦は「学校で精神的なサポートをしてくれると助かる」と訴えた。

町立つばき小4年の女子児童(10)は、土砂が押し寄せてきたため祖父の家に避難。18日に自宅付近を歩くと、友人の家がバラバラに壊れていた。「自分の家にも土砂が来て、崩れてしまうのかと思うと怖い。学校に行くのも怖い」と顔をこわばらせる。

島内の小中学校6校のうち、元町地区にあるつばき小（約150人）と第一中（約90人）は22日も休校の予定で、再開の見通しは立っていない。両校は21日から、教師らが避難所などで接して面談が必要と判断した児童らを対象に家庭訪問を始めた。都がこの日から派遣した臨床心理士らも同行し、児童らの心の状態の把握に努めた。

同小の立木功校長は「傷ついた子どもたちに配慮しながら、接していきたい」と話している。都教委は今後、都立大島高の生徒にも面談を行う。

一方、遺族の精神的ケアを行うのは「日本DMORT（ディモート）研究会」（代表＝吉永和正・兵庫医科大教授）の看護師ら3人。傷みが激しい遺体と遺族が対面すべきか町から相談を受け、損傷を目立たないようにする方法を紹介。山崎達枝看護師は「遺族が孤立しないように寄り添っていければ」と語っている。

夜通し捜索

死者28人に

大島町は21日、台風27号の接近を受け、介助が必要な島内の高齢者や障害者計547人のうち、希望する住民を23日にチャーター船で島外避難させる方針を決めた。一方、21日午前、島内2地区に出されていた避難勧告が解除され、再開した捜索で新たに1人の遺体が見つかった。午後8時現在の死者は28人、うち1人の身元が判明、行方不明者は18人となっている。

島外避難する高齢者や障害者は都が都営住宅やホテルなどに受け入れる予定。付き添いを1人認める方針で、島外避難者は最大で1000人規模になる見通し。

気象庁は21日分、大雨警報を解午前8時、約12約2300人に た避難勧告を解所にいた住民は約39時間ぶりに た。捜索は21日180人態勢で徹して行われた同日、約500遣し、22日は総人以上で捜索を

日没後も続けられる行方不明者の捜索活動（21日午後6時43分、東京都大島町で）＝竹田津敦史撮影

壁登り2階へ避難「生きているのは奇跡」

土石流直撃のホテル宿泊者

土石流が押し寄せた当時、大島町発注の建設工事のため神達（かんだち）地区の「ホテル椿園」に宿泊していた建設会社員の川崎慎也さん(35)（茨城県取手市）と村上悟さん(42)（大阪府高槻市）。いったん島を離れた川崎さんは21日、工事現場の状況の確認に島に戻った。2人

下に出ると、宿泊客が騒ぐ声が聞こえた。「ホテルが

土砂が1㍍ほど積もり、ドアを塞いでいた。窓から中庭に出ると、土砂降りの雨と強風で目も開けられない。エアコンの室外機をよじ登った。「早く、早く」。

下で毛布や布団にくるまって夜明けを待った。

明け方、外に出ると、「痛い、痛い」と、隣の民宿から女性の声が聞こうだめ」。土砂に女性がうめく度に と声をかけながら つ土砂を取り除き助け出した。その土砂が積み上がりもれていた。

川崎さんが島に日、ホテル周辺の

がんばる会社の会計ソフト
JDL IBEX
無料版もでたよ!

大規模修繕から個別住
新日本リフォ
http://www.sn-reform.co